

平成24年度  
多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業  
地域リーダー研修(愛知県)  
平成25年2月7日(木)、14日(木)

多職種協働の今日的意義とグループワークの進め方

平成25年2月7日 独立行政法人国立長寿医療研究センター  
在宅連携医療部長 三浦久幸

平成25年2月14日 名古屋大学大学院医学系研究科  
地域包括ケアシステム学寄附講座 准教授 鈴木裕介

# 1. 多職種協働の意義、困難とする要因等の解説

# 在宅ケアの多面性と IPWの有効性



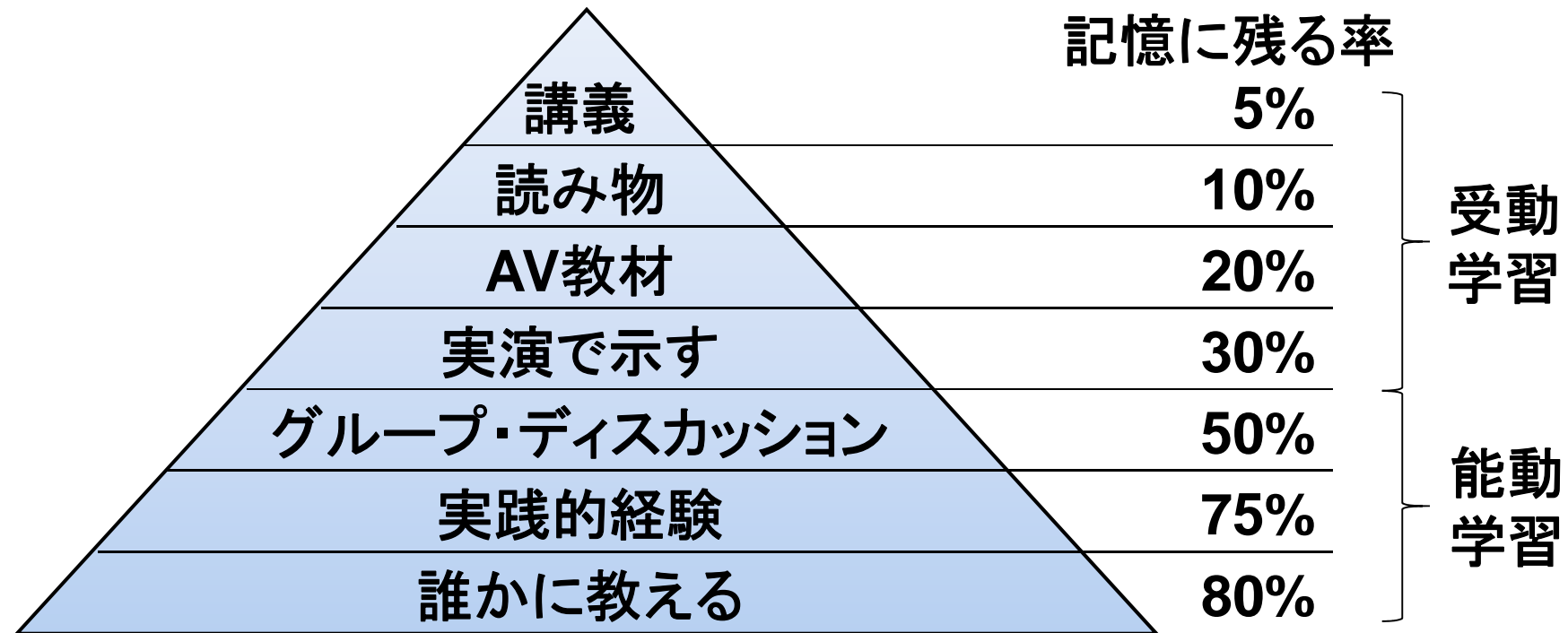
最大のアウトカムを得るためにはIPWが必要

# 在宅ケアで多職種連携が 推奨される理由

- 1 チームで対応することによって、在宅患者の身体的、心理的、社会的な問題、及び家族も含めた複雑なニーズにより良く対応でき、それによって彼らの健康とQOLの向上に寄与する。
- 2 多職種間で、知識と技能を分かち合うことによって、各専門職に求められているものが明確となり、その結果各職種の専門性を強化することになる。
- 3 患者や家族に必要なケアや地域に必要なシステムなどについてより俯瞰的にみる視点が養われる。
- 4 在宅ケアに関わる仕事をより豊かで、興味深いものにする。

# ワークショップとグループワーク の進め方

# 学んだ内容は どの程度記憶に残るか



National Training Laboratories, Bethel, Maine, USA

# グループワークの意義

1. 能動的に参加する中で学ぶため、学習者の意欲や集中力を高め、学習効率を高める
2. 現場にある実践的な課題を、仮想チームの中で解決しながら学ぶため、実践的な学習になる。
3. 自分の考えや知識を他の専門職と共有しながら学ぶことができるとともに、他の専門職から自分の専門性に求められていることを理解することで、専門職としての学習意欲ややりがいを高める。

1. 多職種協働の意義、困難とする要因等の解説
2. グループワークを効果的に進めるための方法
3. 地域資源に関するさまざまな課題抽出の方法紹介
4. KJ法を用いた課題抽出の方法紹介



# 意見を引き出すための具体的な方法

- 事前準備
  - 適正な人数・・6～8名の適切な人数のグループ分け
  - 皆が話せるテーマの設定
- 発言の方法
  - 同じ人が長く話さないように時間に気を配る。
  - 順番に発言したり、発言のない人に発言を促す。
- 工夫
  - いきなり発言を求めず、準備する時間をとる
  - 付箋に意見を書き出してもらう(KJ法など)

# グループワークの中で緊張が生じる時

- 安全性が保障されていない
  - 自分の発言が他人に誤解された
  - 人の発言を聞いて、他の参加者に対する敵意を感じた
- 論点がずれる
  - 今話題になっていることが重要でないと思う
  - これは、皆で話すべきことではない
- 議論が成り立っていない
  - 専門用語が多すぎてわからない
  - 難しくついていけない
- 進行速度
  - 進行が遅(速)すぎる

# 多職種間の議論で注意すること

- 共通の目標をもって議論する
  - 患者と介護者のニーズにフォーカスをあてる
  - 「本人の幸せ」という共通の目標で議論する
- お互いの専門性を尊重する
  - お互いの専門分野のことを否定しない
- 専門性の背景(知識・文化)と専門用語に配慮する
  - 専門用語や略語は使わない
  - 基本的知識面での違いに配慮する
  - 多職種の役割を知るため、自己紹介の時間をとる

### 3. 地域資源に関するさまざまな課題抽出の方法紹介

# ①医療介護資源の視覚化・数量化を 通じた課題抽出の方法